

2021 年度

お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士後期課程）

進学者選考要項

〔注〕生活工学共同専攻進学者は、「生活工学共同
専攻学生募集要項」を参照してください。



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

☎ 03(5978)5697

HP <http://www.ao.ocha.ac.jp/>

※試験期日は社会情勢により、急きょ変更になる可能性があります。変更があった場合は、あらかじめ通知します。随時、ホームページで最新情報を確認してください。

(注) お茶の水女子大学博士前期課程から引き続き
学内進学する者は、留学生も含めて「進学者選考要項」
で出願すること。ただし生活工学共同専攻進学者は、
「生活工学共同専攻学生募集要項」(別冊子) で出願す
ること。

目 次

| | | |
|------|---------------------------------|----|
| I. | 専攻・領域の概要及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー） | 1 |
| | 比較社会文化学専攻 | |
| | 人間発達科学専攻 | |
| | ジェンダー学際研究専攻 | |
| | ライフサイエンス専攻 | |
| | 理学専攻 | |
| II. | 学生募集日程等 | |
| 1. | 専攻・領域及び募集人員 | 5 |
| 2. | 試験期日 | 5 |
| 3. | 出願資格 | 5 |
| 4. | 出願期間 | 5 |
| 5. | 出願方法 | 5 |
| 6. | 選考方法 | 5 |
| 7. | 試験場所 | 5 |
| 8. | 10月進学について | 6 |
| 9. | 合格発表 | 6 |
| 10. | 進学時期 | 6 |
| 11. | 検定料、入学料及び授業料 | 6 |
| 12. | 注意事項 | 6 |
| 13. | 進学手続関係書類 | 6 |
| 14. | 学生支援について | 6 |
| 15. | 長期履修学生制度について | 7 |
| 16. | Global Students Course について | 7 |
| 17. | 個人情報及び試験成績の利用について | 7 |
| 18. | 学生募集及び入学試験に関する問い合わせ先 | 7 |
| III. | 選考方法詳細 | |
| | 【全専攻共通】 | |
| 1. | 出願書類 | 8 |
| 2. | 試験科目 | 9 |
| 3. | 試験日程 | 9 |
| 4. | 口述試験要領 | 9 |
| | 【各専攻詳細】 | |
| | 比較社会文化学専攻 | 9 |
| | 人間発達科学専攻 | 9 |
| | ジェンダー学際研究専攻 | 10 |
| | ライフサイエンス専攻 | 10 |
| | 理学専攻 | 11 |
| IV. | 担当教員及び主な授業科目 | 12 |

本学所定用紙（出願書類）

- ・進学願書・写真票・受験票
- ・別紙「提出書類一覧」
- ・推薦書

I. 専攻・領域の概要及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

※生活工学共同専攻の概要及び入学者受入方針については、生活工学共同専攻学生募集要項を参照してください。

1. 目的

博士後期課程は、高度の専門研究及び専門諸分野の基礎に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2. 標準修業年限 3年

3. 専攻及び入学定員

| 専攻 | 比較社会文化学専攻 | 人間発達科学専攻 | ジェンダー学際研究専攻 | ライフサイエンス専攻 | 理学専攻 |
|------|-----------|----------|-------------|------------|------|
| 入学定員 | 27 | 14 | 4 | 13 | 13 |

※生活工学共同専攻については、入学定員2名です。

4. 課程の修了

学生は、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 取得できる学位

学術、人文科学、理学、社会科学、生活科学又は理学グローバルリーダー（※）、工学グローバルリーダー（※）、学術グローバルリーダー（※）の博士の学位である。

専攻分野に応じて、学位が授与される。

※ ただし、グローバル理工学副専攻プログラム課程の修了者のみ選択可能。

6. 各専攻・領域の要旨及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

◎ 比較社会文化学専攻

比較社会文化学専攻では、社会と文化に関する高度に学際的かつ総合的な専門研究を行うことを通じて、人間文化の基礎理論の確立を目指している。また、国際的視野の中で日本研究を推進し、総合学としての日本学を世界に発信していくことを企図している。

本専攻では、こうした目的に即しつつ自立的に研究を行うことに強い自覚をもった人材を求めており、特に以下の2点を、前提として強調しておきたい。

1. 資料や文献を読解するため、また、国際的な研究交流を遂行するために必要な語学力を有していること。
2. 日本を含む世界各地の過去もしくは現在の社会構造等、アジア・欧米の言語・文学・思想等、日本を含む世界各地の芸術作品・芸術活動等のいずれかの分野において、上記の研究の基礎となり得る知識と研究能力を有していること。

| 領域 | 要旨 |
|-------|---|
| 国際日本学 | 国際日本学領域は、本学の戦略的研究・教育領域として位置づけられており、国際的に多様化する大学院教育の現状に対応して、国際的視野のなかで日本研究を進め、文学・言語学・歴史学・思想・文化・身体論の総合学としての日本学を世界に発信する人材を養成することにより、日本研究における世界の教育拠点となることを目標としている。 本領域に進学する学生には、それぞれの専門分野において高度な研究を進めるとともに、専門性を踏まえた日本に関する学際的な関心の涵養と、総合的な知識の蓄積、さらに研究交流への積極的な参加や、そうした活動の基礎となる外国語能力の向上による国際性の養成にも留意して、研究を進めていくことが期待される。 |
| 言語文化論 | アジア、欧米を中心とする各国文学・言語学・言語教育学の専門知識を深め、高度な研究を行う。必要に応じて領域横断的な研究視点を採り入れるとともに、言語の研究、言語を介した文学・文化の研究における新たな知見を国際的に発信する能力を養う。 |
| 比較社会論 | 哲学思想・歴史からスポーツまでを対象に、過去の思想・歴史を踏まえつつ、日本・アジア・欧米・イスラムの諸地域を相互に比較横断する研究を推し進める領域である。社会分析的視点を大幅に強化し、社会構造の分析にとどまらない社会と文化の学際的・総合的な研究を進めていくことが期待される。 |

| | |
|-------|--|
| 表象芸術論 | 美術・工芸・服飾・舞踊・音楽を主な対象とし、文化表象・表現を多方面から、舞踊・音楽においては実践と理論の融合を図りつつ、専門的かつ横断的に批判的分析・追究する領域である。表象芸術に関する幅広い知見と専門知識、独創的な分析力をもち、表象芸術論を人間理解・国際協力の強力な媒介として社会に提言することに意欲をもった学生を求める。 |
|-------|--|

◎ 人間発達科学専攻

人間発達科学専攻は、人間の生涯にわたる発達と社会環境にかかわる広いテーマに関連する高度の専門研究を進める女性研究者となる人を育てている。人間の発達、環境、教育、生活などの領域について、日本や世界の、過去から現在、あるいは21世紀への諸問題の解決に意欲を持つ学生の入学を期待する。後期課程3年間で博士論文の完成ができることが期待される。入学後は1年次から毎年、学会発表、学会誌への論文の投稿、学内外の研究活動への参加など、計画的に研究成果をあげることが求められる。まず、優れた修士論文を完成させること。

入学試験では、修士論文の質と、今後の研究計画が明確かどうかを審査する。原則として、言語試験での60%以上の得点も条件とする。研究指導を受けたいと考える教員に事前に相談すること。意欲的な学生の皆さんの応募を期待する。

| 領域 | 要 旨 |
|----------|--|
| 教育科学 | 人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。基礎科学・方法論として、教育思想、教育史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として教育課程・教育方法論、教育開発論を設置する。当領域では、人間の発達について教育科学的に考えることのできる研究者および研究者的な視点をもつ実践者の育成をめざしている。 |
| 心理学 | 心理学領域では、人間の心理を脳を核として、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多角的・総合的に検討し理解する。そのために次のような授業科目を設けている。「発達心理学先端研究」「認知科学論」「メディア心理学」「健康行動論」「発達精神病理学」。これらの授業科目における教育・研究を通して、心理学領域の研究者を育成することが、本領域の目的である。心理学の研究者や専門職となることを希望する学生を期待する。すでに心理学の基礎的・応用的方法論や統計的手法を習得していること、英文で学術論文を作成する力を求める。広い分野への関心を期待しつつ、「発達心理学」「認知心理学」「社会心理学」「臨床心理学/健康心理学」「教育心理学/発達精神病理学/人格心理学」の分野のいずれかにおいて専門的な研究をすすめる意欲のある学生を求める。 |
| 発達臨床心理学 | 発達臨床心理学の教育および研究を行う。臨床心理学を柱として、家庭、教育、医療、福祉、司法、産業等のさまざまな場における心理臨床的、発達の課題について専門的に対処する力を養成するとともに発達臨床心理学の研究を行う高度な研究能力を養う。臨床心理学の研究者および専門職となることを希望する学生を求める。すでに臨床心理学の基礎的・応用的方法論や、統計的手法を習得していることが必要である。 |
| 社会学・社会政策 | 社会学を中心に、経済学、法学などを含む社会科学を基礎学問として、人間、社会、文化にかかわる諸現象を解明する。また、社会科学の研究における理論と実証の関係のみならず、実践との密接な結びつきを意識して、政策科学的な研究として発展させることを重視している。 |
| 保育・児童学 | 保育・子育て等の現場で生じている多様な問題を、多角的に分析・理解し、問題解決を図ることのできる高度な専門的知識と実践能力を備えた人材を育成することが目的である。具体的には、乳幼児期における保育・幼児教育、乳幼児期以降の親子の発達支援、0歳から就学期・児童期を見通した接続的教育などを研究する研究者、専門職業人を養成する。乳児期、幼児期、児童期の発達過程、それにかかわる親や保育者・教師などの発達過程を射程に入れ、社会的に要請される多様な問題の分析能力、課題解決や問題への接近方法、および援助方法について高度な知識と実践経験をもつ人材を目指す。専門領域における研究者、育児や教育アドバイザーなどのリーダーとして活躍する人材を想定している。 |

◎ ジェンダー学際研究専攻

家族、労働、人権、教育、開発、経済、政治、法政策、国際関係、国際協力、地域計画、環境、科学技術、福祉、医療など、幅広い研究対象についてジェンダー視点を中心とした研究に関心を持ち、これらに関する諸問題の解決に意欲を持つ方の入学を歓迎する。

入学には、社会科学、人文科学等の学問領域での優れた修士論文またはそれに代わるものを完成させていることが必要である。入学後は1年次から毎年、学会発表、学会誌への投稿、学内外の研究活動への参加など、計画的に研究成果を挙げることが求められ、3年間で博士論文を完成することが期待される。研究指導を受けたと考える教員に必ず事前に相談をすること。

なお、本専攻において取得できる学位は、学術、人文科学、社会科学、生活科学である。

| 領 域 | 要 旨 |
|--------|--|
| ジェンダー論 | ジェンダーを中心とした理論的検討、実証的・政策的課題を探究する。ジェンダー視点を中心とした分析は、家族、労働、人権、教育、開発、経済、政治、国際関係、国際協力、地域計画、環境、科学技術、医療など、あらゆる政策分野において必要とされている。学問領域を超えたジェンダー課題群を中心に、主体的に取り組む人材の育成をめざす。 |

◎ ライフサイエンス専攻

本専攻は、基礎生命科学からバイオテクノロジーにわたるライフサイエンス全般の発展に寄与するため、「生命科学」、「生活科学」という学問領域の有機的な統合を試み、人間を生命、生活の両面から捉える。そのため、生命科学領域、食品栄養科学領域、遺伝カウンセリング領域を設置する。本専攻ではライフサイエンス全般を基礎から応用まで幅広く理解でき、ライフサイエンス分野の研究者として自立できる、また指導的役割を担う人材を育成する。本専攻の学生には教員の指導の下、ライフサイエンスに関する課題を設定し、実験を主体とする研究計画を作成、実施し、その結果を公表することが求められる。そのため、研究に対する強い自覚と意欲を持った上で、データ分析調査能力、研究実施能力、研究の妥当性に対する判断力、発表能力等が求められる。

| 領 域 | 要 旨 |
|-------------|---|
| 生 命 科 学 | 高度に複雑な生命体の巨視的および微視的構造、機能、応答、情報処理、遺伝のメカニズムを、個体・細胞・分子レベルで解明する。 |
| 食 品 栄 養 科 学 | 本領域では、食と栄養に関する基礎研究から応用開発にいたる領域を対象とし、健全な食生活を構築するとともに、生活習慣病の予防、食の安全性などの問題を解析・解決する。食や栄養に関する基礎的研究から応用開発や臨床対応までできる食と栄養のスペシャリストを育てる。具体的には大学や公的研究機関の研究者、管理栄養士のリーダー、栄養士や管理栄養士養成校の教員、公務員、食品企業の研究者、病院管理栄養士などをめざす。本領域では、食品の品質、機能、嗜好性、安全性、健康や疾病と食品の関連などを含めた食を取りまく諸問題について、有機化学、生化学、分子・細胞生物学、疫学などを用い、専門的教育ならびに先端的研究を行う。 |
| 遺 伝 カウンセリング | 遺伝カウンセリングという新しい学際領域で活躍する先駆的人材を養成することを目的とする。遺伝カウンセラーとしての知識、技術、臨床実践の研鑽をふかめ、遺伝カウンセリング学の構築と、遺伝医療に寄与する研究を遂行し、新しい学問分野の開拓と、後進の指導のための教育推進に資する人材を育成する。人類愛と医療に対する深い理解を基盤に持ち、国際的視野から日本における新しい分野の確立に貢献する意欲と能力が必要とされる。 |

◎ 理学専攻

理学専攻は、人間と自然が織りなす複雑な諸現象を、現代自然科学の方法論に基づいて学際融合的に教育研究し、新しい科学の創成を目指しつつ次世代を担う人材を養成することを目的としている。研究に必要な基礎能力と強い意欲をもって研究者・高度専門技術者を目指す女性はもちろんのこと、社会人としての基盤を保ちながらより高度な専門的能力の開発を望む方や独自のライフスタイルで学問を究めることを志す女性を広く求めたい。

| 領 域 | 要 旨 |
|---------|--|
| 数 学 | 代数、解析、幾何の純粋数学各分野における高度に専門的な教育研究並びに数理的方法論を適用する応用数学分野における専門的な教育研究を行い、自立して研究活動を行いうる能力、数学の立場からの学際的研究能力を培うことを目標とする。この教育目標に沿って、確かな数学の力の上に、自ら課題を見出し自ら解決の方向性を探る自立した研究者となろうという志をもち、自己の専門分野のみならず隣接分野や新しい分野、課題も積極的に学ぼうという姿勢をもった学生を受け入れる方針である。 |
| 物 理 科 学 | 物理学の各分野及び他領域との隣接分野における最先端の研究を通して、それぞれの分野において高度な専門性を有し研究者としての素養を身につけた人材を育成するための教育を行っている。物理学の各分野における十分な基礎学力を有するとともに、将来、研究者として自立し、国際的な視野をもって指導的役割を果たす人物になろうとする自覚と意欲をもった学生を求めている。 |
| 化学・生物化学 | 物質を構成する広範な有機・無機分子、金属錯体及び分子集合体、さらに生体を構成する生体関連分子、蛋白質や糖などを対象に、物質科学、材料科学、物質創成科学、複雑系科学及び生命科学などの諸分野に広がる教育研究を行う。諸現象を原子・分子レベルから解明する意欲と学際領域への興味をもち、国際的視野を拓げつつ、研究における創造性と自立性を高める努力を惜しまない人を歓迎する。 |
| 情 報 科 学 | 情報科学の基礎から応用までの幅広い分野が、互いに連携しつつ研究を行うことで、高度情報化社会で要求される情報科学的な理論と応用を明らかにする。すなわち、次世代情報科学に必要な数理科学手法、現代情報科学の基礎となる計算機科学手法とその応用、自然・生命現象、生活科学などから生まれる様々な情報の利用・解析手法を研究する。これに共感する人達を経歴を問わず広く受け入れている。 |

Ⅱ. 学生募集日程等

1. 専攻・領域及び募集人員

| 専攻 | 領域 | 9月 入試 | 3月 入試 | 募集人員(注) | |
|-------------|---|----------|----------|---------|-----|
| | | | | 一般 | 留学生 |
| 比較社会文化学専攻 | 国際日本学領域、言語文化論領域、比較社会論領域 表象芸術論領域 | × | ○ | 27名 | 若干名 |
| 人間発達科学専攻 | 教育科学領域、心理学領域、発達臨床心理学領域 社会学・社会政策領域、保育・児童学領域 | × | ○ | 14名 | 若干名 |
| ジェンダー学際研究専攻 | ジェンダー論領域 | × | ○ | 4名 | 若干名 |
| ライフサイエンス専攻 | 生命科学領域、食品栄養科学領域 遺伝カウンセリング領域 | ○ | ○ | 13名 | 若干名 |
| 理学専攻 | 数学領域、物理学領域、化学・生物化学領域 情報科学領域 | ○ | ○ | 13名 | 若干名 |

(注) 募集人員(一般)には、進学者選考以外の一般入試の募集人員を含む。

※「生活工学共同専攻」の入試については、「生活工学共同専攻学生募集要項」を参照してください。

2. 試験期日

| | |
|------|--------------------|
| 9月入試 | 2020年9月7日(月) |
| 3月入試 | 2021年3月3日(水)・4日(木) |

※ 試験期日は社会情勢により、急きょ変更になる可能性があります。変更があった場合は、あらためて通知します。随時、ホームページで最新情報を確認してください。

3. 出願資格

- 比較社会文化学専攻、人間発達科学専攻、ジェンダー学際研究専攻
4月進学： 本学大学院(博士前期課程)を2020年9月修了した者及び2021年3月修了見込の者
- ライフサイエンス専攻、理学専攻
10月進学： 本学大学院(博士前期課程)を2020年3月修了した者及び2020年9月修了見込の者。ただし、ライフサイエンス専攻遺伝カウンセリング領域を除く。
4月進学： 本学大学院(博士前期課程)を2020年9月修了した者(9月入試を受験する場合は9月修了見込の者)及び2021年3月修了見込の者。

4. 出願期間

| | |
|------|---|
| 9月入試 | 2020年7月27日(月)～7月29日(水)【必着】 |
| ※ | 但し、7月28日(火)の日本国内の消印のあるものに限り、期間後に到着した場合でも受理する。 |
| 3月入試 | 2021年1月5日(火)～8日(金)【必着】 |
| ※ | 但し、1月7日(木)の日本国内の消印のあるものに限り、期間後に到着した場合でも受理する。 |

5. 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、書留速達で郵送すること。郵送等以外は受け付けないので注意すること。
なお、論文等が封筒に入りきらない場合には、「書留速達小包」として送っても差し支えない。大学窓口では直接受け付けないので注意すること。

受験票は口述試験要領・日程案内等を同封の上、後日送付する。試験日の7日前までに、郵送予定。また、この受験票は入学手続の際にも必要となるので、紛失しないように注意すること。

6. 選考方法

学力検査(口述試験)及び出願書類を総合して行う。
詳細については、各専攻ごとに定めてあるので参照のこと。

7. 試験場所

お茶の水女子大学

8. 10月進学について

次の専攻・領域について10月進学（進学時期：2020年10月）を希望する者は、2020年9月入試時に出願することができる。希望する場合は、進学願書、写真票及び受験票の進学希望時期欄の「2020年10月」にチェックすること。進学を許可された後で、4月進学に変更はできないので注意すること。
ただし、10月進学の場合は、2020年度の専攻・領域に所属し、2020年度の授業科目を履修することになるので、注意すること。また、志望教員には、事前に連絡をとること。

- ライフサイエンス専攻 生命科学領域、食品栄養科学領域
- 理学専攻 全領域

9. 合格発表

| | | |
|------|---------------|-----|
| 9月入試 | 2020年9月11日（金） | 12時 |
| 3月入試 | 2021年3月10日（水） | 17時 |

- (1) 「本学南門掲示板」 に合格者の受験番号を掲示する。
- (2) 合格者には、発表当日、あて名シール（出願書類）の住所に合格通知書を速達で発送する。
なお、入試ホームページにも合格者の受験番号を掲載する予定。
入試ホームページ URL <http://www.ao.ocha.ac.jp/>
(注) 電話等による合否の問い合わせには応じない。

10. 進学時期 2021年4月（2020年10月進学者を除く。）

11. 検定料、入学料及び授業料

- (1) 検定料及び入学料は、不要です。
- (2) (i) 2021年4月進学者
授業料 前期分 267,900円 (年額 535,800円) (予定額)
- (ii) 2020年10月進学者
授業料 半期分 267,900円 (年額 535,800円)
進学手続時納入額は、半期（後期）分のみである。

- (注1) 進学時及び在学時に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用される。
(注2) 4月進学者は、前期分の授業料を進学手続期間中に納付しない場合は、4月1日から5月31日までの間に納入することになる。希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて年額を納付することができる。

12. 注意事項

- (1) 提出された書類に不備がある場合には、受理しない。また出願受理後は、いかなる事情があっても、出願書類等の変更・返却の請求には応じない。
- (2) 出願について、不明な点がある場合には、入試課（次頁の問い合わせ先）に問い合わせること。
- (3) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。
- (4) 受験票は、進学手続き（合格者）の際にも必要となるので、紛失しないように注意すること。
- (5) 出願後受験を辞退する場合や、合格後進学を辞退する場合には、すみやかにその旨連絡のこと。
- (6) 2つ以上の専攻に記載されている教員を指導教員にする場合には入試課に問い合わせること。

13. 進学手続関係書類

9月入試： 2021年2月中旬頃に郵送する。
ただし、10月進学者は、合格通知書に同封する。

3月入試： 合格通知書に同封する。

- ※ 合格通知後、住所を変更した場合は必ず入試課へ届け出ること。
- ※ 進学手続関係書類の中で、進学手続期間には注意すること。10月進学については、合格発表から進学手続までの期間と手続期間ともに短期間となるので特に注意すること。

14. 学生支援について

本学独自の奨学金として大学院博士後期課程研究奨励賞及び錦織チサエ奨学金（どちらも予約型奨学金、学内進学者対象）があります。これは、進学を希望する本学博士前期課程学生に対し、進学後の研究支援を行うことを目的とする制度です。入試出願前に奨学金を申請し、採用となった場合、入試合格・入学後に奨学金を受け取ることができます。詳細については、大学院博士後期課程研究奨励賞及び錦織チサエ奨学金の募集要項（9月上旬頃本学HPに掲載）をご覧ください。

また、本学に設置された保育所を利用する学生に保育料の一部を援助する育児支援奨学金があります。

さらに経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる者に対し、選考の上、授業料

の全学又は半額を免除、あるいは徴収を猶予する制度があります。

その他日本学生支援機構による奨学金、民間の法人や団体からの奨学金等、学生支援に関する詳細は、本学ホームページを参照してください。

- 入学科及び授業料の免除・徴収猶予制度について <http://www.ocha.ac.jp/campuslife/info/exemption.html>
- 奨学金について <http://www.ocha.ac.jp/campuslife/scholarship/about.html>
- 学生寮について <http://www.ocha.ac.jp/campuslife/lodgings/index.html>

不明な点については、本学学生・キャリア支援課（下記）にお問い合わせください。

入学科及び授業料免除、学生宿舎担当 TEL 03-5978-2646, E-mail gakusei@cc.ocha.ac.jp

奨学金担当 TEL 03-5978-5148, E-mail gakusei@cc.ocha.ac.jp

ただし、外国人留学生の奨学金については、国際課（下記）に照会してください。

留学生奨学金担当 TEL 03-5978-5143, E-mail ryugai@cc.ocha.ac.jp

15. 長期履修学生制度について

職業を有する等の事情により、一般の学生に比べて年間に修得できる単位数が限られ、標準修業年限で終了することが困難な学生を対象として、長期履修学生制度を導入しています。そうした事情にある者は、3年間で設定されている修業年限を4年間から6年間で履修し、課程を修了することを認められることがあります。（全ての申請者が適用を受けられる訳ではなく、制度の趣旨に沿っているかを学内の委員会で審査し、適用の可否を決定します。）「職業を有する等」とは、有職者（正規雇用、臨時雇用（パートタイムなど正規に近い勤務時間の者）、自営業等）、家事、育児、介護、障がい等の事情にあることをいいます。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、「定められた授業料の年額」に「修業年限に相当する年数」を乗じて得た額を、「在学期間の年数」で除して得られた額となります。

長期履修学生を希望する者は、入学手続き期間内に申請書類を提出してください。不明な点については、本学学務課（TEL 03-5978-5821, E-mail daigakuin@cc.ocha.ac.jp）にお問い合わせください。

16. Global Students Course について

2020年4月入学者より、英語による入学者選抜、入学後の講義受講、論文指導及び学位取得を可能とする Global Students Course を設けています。Course 担当教員について、p. 12「IV. 担当教員及び主な授業科目」一覧で確認してください。また、受験希望者は、事前に入試課（問い合わせ先は下記 18.）にご連絡ください。

17. 個人情報及び試験成績の利用について

- (1) 大学が取得した氏名、住所、成績及び学修状況等の個人情報は、入学後の教務関係（学籍、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、授業料免除、奨学金の選考等）及び授業料等に関する業務を行う為に必要な範囲内で利用します。
- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試の改善や志願動向の調査・分析及びこれらに付随する業務を行う為に必要な範囲内で利用します。

18. 学生募集及び入学試験に関する問い合わせ先

お茶の水女子大学 入試課

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

TEL (03) 5978-5697 (土日祝日除く平日 9時～17時受付)

FAX (03) 5978-5895

E-MAIL nyushi@cc.ocha.ac.jp

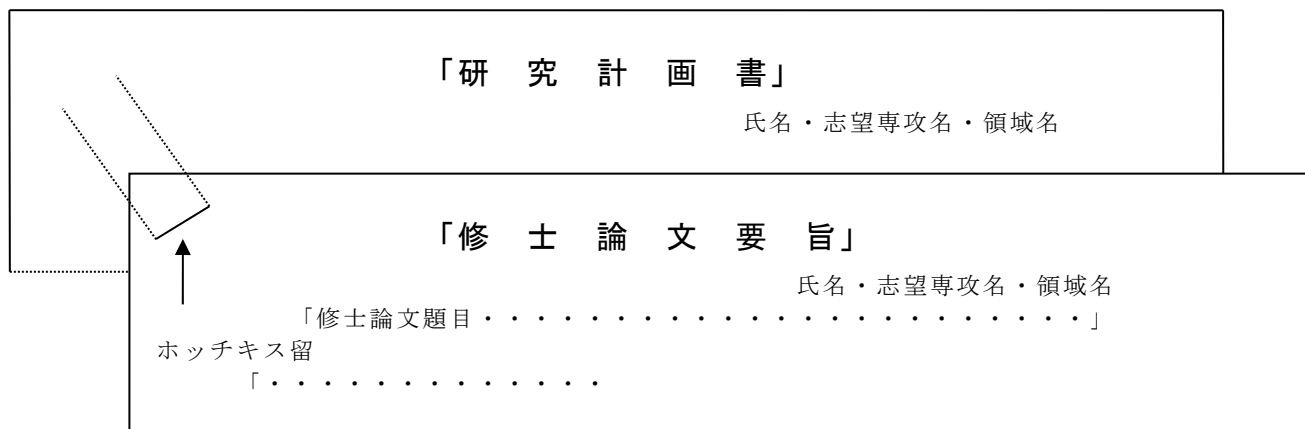
Ⅲ. 選考方法詳細

【全専攻共通】

1. 出願書類（6 は、外国人留学生のみ提出）

| | | |
|---|----------------------|--|
| 1 | 進学願書 受験票 写真票 | 本学所定の用紙 5 cm×4 cmで出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付。 受験票は入学手続の際にも必要となる。 |
| 2 | 修士論文等 (注1) | 2部 ※各専攻ごとの詳細参照のこと。 提出論文は、試験終了時に返却する。 |
| 3 | 修士論文等の要旨 | 6部 ※各専攻ごとの詳細参照のこと。 指示事項にそってれば、用紙の縦方向・横方向、罫紙・白地の別は自由。 |
| 4 | 研究計画書 | 6部 比較社会文化学専攻・人間発達科学専攻・ジェンダー学際研究専攻は、日本語1,000字前後、横書き、A4判用紙2枚以内におさめること。 ライフサイエンス専攻・理学専攻は、日本語1,000字前後、又は英語400語程度で、A4判用紙2枚以内におさめること。なおグローバル理工学副専攻履修学生は、主専攻で取り組む予定の研究内容について提出すること。 |
| 5 | 成績証明書 | 博士前期課程のもの（コピー不可）。 |
| 6 | 住民票の写し (外国人留学生のみ) | 市区町村発行で <u>在留資格が記載</u> されたもの。 |
| 7 | 返信用封筒 | 本学所定の封筒に宛名を明記し414円切手（定形郵便94円+簡易書留320円 ※郵便料金が改定される場合は、新料金に相当する額）を貼付すること。 <u>※日本国内の住所を記入すること。</u> ※後日、受験票と口述試験日程等を試験日の7日前までに届くように郵送予定。 |
| 8 | あて名シール | 合格通知に必要なので、確実に連絡が取れる住所を記入すること。 |
| 9 | 提出書類一覧 | 別紙。封筒に入れた全ての書類の部数について記入し同封すること。 |

- (注1) 人間発達科学専攻、ライフサイエンス専攻及び理学専攻の修了見込の学生の論文提出期限については、【各専攻詳細】を参照すること。
- (注2) これらの書類の他に、指導教員又はそれに準ずる者が作成した推薦書（本学所定の用紙）を提出することができる。
- (注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組にして左肩を重ねてホッチキス留めすること。



- (注4) Global Students Courseを希望する受験者は、TOEFLのスコア票又はIELTSの成績証明書を提出してください。受験日が本学入学試験日からさかのぼって2年以内を有効とします。

2. 試験科目： 口述試験（主論文及び研究計画）

3. 試験日程

9月入試

| | |
|------|---------------|
| | 2020年9月7日（月） |
| 口述試験 | 10時00分～18時45分 |

3月入試

| | | |
|------|---------------|---------------|
| | 2021年3月3日（水） | 2021年3月4日（木） |
| 口述試験 | 13時30分～18時45分 | 10時00分～18時45分 |

※ 口述試験はこの内の40分間であり、個人の日時については受験票送付の際、あわせて通知する。

4. 口述試験要領

- (1) 口述試験は、本学で指定する日時とし、願書受理後、受験票と一緒に口述試験日程案内を送付する。
- (2) 試験において、修士論文（又はそれに代わるもの）及び研究計画の内容・意義について比較社会文化学専攻は10分程度、人間発達科学専攻・ジェンダー学際研究専攻・ライフサイエンス専攻・理学専攻は15分程度の説明を求められる。グローバル理工学副専攻履修学生については、「グローバル理工学研究」の研究成果、並びに、「PBTS-I」の成果及び主専攻で取り組む研究計画の内容・意義について15分程度の説明を求められる。
- (3) 使用機器はノートパソコンを除き試験室に用意するので、機器を使用する者は、願書中の「口述試験使用機器」欄の使用機器に○を付けること。出願受理後の変更には応じられないので注意すること。
 - ・貸出する機器はOHC、PCプロジェクター、CDプレーヤー（カセットテープレコーダー兼用）とする。
なお、ノートパソコンの貸出はしないので、持参すること。
 - ・なお、機器を使用する者は、うまく投影できない場合等に備えて、内容をプリントアウトし、4部配付用に持参すること。
- (4) 口述試験終了後、試験担当教員から修士論文を返却される。

【各専攻詳細】

※ 出願書類の内、2. 修士論文等、3. 修士論文等の要旨について

比較社会文化学専攻

| |
|---|
| 修士論文等 2部 |
| ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合はそれらを添付することができる。（各2部） |
| ※ 日本語以外の言語で作成したものについては、5,000字以上の日本語要約を添付すること。（2部） |
| 修士論文（主論文）の要旨 6部 |
| 2,000字以内、横書き、A4判用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。 |

（注） 出願に際しては、指導を志望する教員の専門と合致しているか、あらかじめ確かめておくことができる。

人間発達科学専攻

| |
|---|
| 修士論文等 2部 |
| ただし、修士論文を補足する研究成果がある場合はそれらを添付することができる。（各2部） |
| ※ 日本語以外の言語で作成したものについては、5,000字以上の日本語要約を添付すること。（2部） |
| 修士論文（主論文）の要旨 6部 |
| 2,000字以内、横書き、A4判用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。 |

- (注1) 3月入試出願に際し、出願期間以降(2021年1月8日(金)以降)に修士論文の提出締切がある修了見込の学生は、論文題目と論文提出締切日を願書に記載し、論文本体は2021年1月22日(金)【必着、但し1月21日(木)の消印は受理】までに書留速達で提出すること。
- (注2) 出願に際しては、指導を志望する教員又はその教員が所属する領域代表の教員にあらかじめ必ず問い合わせしておくこと。領域代表教員については、人間発達科学専攻の「担当教員及び主な授業科目」一覧を参照のこと。

ジェンダー学際研究専攻

| |
|--|
| 修士論文等 2部 |
| ただし、修士論文を補足する研究成果がある場合はそれらを添付することができる。(各2部) |
| 修士論文(主論文)の要旨 6部 |
| 論文要旨は日本語又は英語で提出すること。 日本語ならば2,000字以内 英語ならば 800語以内 でA4判用紙3枚以内 (図表を含む)におさめること。 |

- (注) 出願に際しては、指導を志望する教員又はその教員が所属する領域代表の教員にあらかじめ必ず問い合わせしておくこと。領域代表教員については、ジェンダー学際研究専攻の「担当教員及び主な授業科目」一覧を参照のこと。

ライフサイエンス専攻

| A | B |
|---|--|
| ①10月進学を希望する者 ②4月進学希望者で、3月入試を受験する者 | ③4月進学希望者で、9月入試を受験する者 |
| 修士論文等 2部 | 修士論文に代わるもの 6部 |
| ただし、修士論文を補足する論文がある場合は、それらを修士論文に添付すること。(各2部) グローバル理工学副専攻履修学生は、「グローバル理工学研究」の研究成果、並びに「PBTS-I」の成果のそれぞれについて、 日本語 5,000字程度 又は、 英語 2,000語程度 にまとめたもの、あるいは、それに代わるものを6部提出すること。 | 修士論文として提出する予定の研究内容、(グローバル理工学副専攻履修学生は、「グローバル理工学研究」の研究成果、並びに「PBTS-I」の成果)を 日本語 5,000字程度 又は、 英語 2,000語程度 にまとめること。(A4判用紙) ただし、図表は字数には含まれない。 なお、公表された研究成果があればそれらを添付することができる。(各2部) ※「修士論文に代わるもの」「研究計画書」の順に1組にして左肩をホッチキス留めすること。 |
| 修士論文(主論文)の要旨 6部 | |
| 論文要旨は日本語又は英語で提出すること。 日本語ならば2,000字程度 英語ならば 800語程度 で A4判用紙3枚以内(図表を含む)におさめること。 グローバル理工学副専攻履修学生は、要旨の提出は不要。 | |

- (注1) 3月入試出願に際し、出願期間以降(2021年1月8日(金)以降)に修士論文の提出締切がある修了見込の学生は、論文題目と論文提出締切日を願書に記載し、論文本体は2021年1月22日(金)【必着、但し1月21日(木)の消印は受理】までに書留速達で提出すること。
なお9月入試出願に際しては、出願者は全員、必要書類を出願期間内に提出すること。
- (注2) 出願に際しては、指導を志望する教員又はその教員が所属する領域代表の教員にあらかじめ問い合わせしておくこと。領域代表教員については、ライフサイエンス専攻の「担当教員及び主な授業科目」一覧を参照のこと。

理学専攻

| A | B |
|---|--|
| ① 10月進学を希望する者 ② 4月進学希望者で、3月入試を受験する者 | ③ 4月進学希望者で、9月入試を受験する者 |
| 修士論文等 2部 | 修士論文に代わるもの 6部 |
| ただし、修士論文を補足する論文がある場合は、それらを修士論文に添付すること。(各2部) グローバル理工学副専攻履修学生は、「グローバル理工学研究」の研究成果、並びに「PBTS-I」の成果のそれぞれについて、 日本語 5,000字程度 又は、 英語 2,000語程度 にまとめたもの、あるいは、それに代わるものを6部提出すること。 | 修士論文として提出する予定の研究内容、(グローバル理工学副専攻履修学生は、「グローバル理工学研究」の研究成果、並びに「PBTS-I」の成果)を 日本語 5,000字程度 又は、 英語 2,000語程度 にまとめること。(A4判用紙) ただし、図表は字数には含まれない。 なお、公表された研究成果があればそれらを添付することができる。(各2部) ※「修士論文に代わるもの」「研究計画書」の順に1組にして左肩をホッチキス留めすること。 |
| 修士論文(主論文)の要旨 6部 | |
| 論文要旨は日本語又は英語で提出すること。 日本語ならば2,000字程度 英語ならば 800語程度 で A4判用紙3枚以内(図表を含む)におさめること。 グローバル理工学副専攻履修学生は、要旨の提出は不要。 | |

(注1) 3月入試出願に際し、出願期間以降(2021年1月8日(金)以降)に修士論文の提出締切がある修了見込の学生は、論文題目と論文提出締切日を願書に記載し、論文本体は2021年1月22日(金)【必着、但し1月21日(木)の消印は受理】までに書留速達で提出すること。
 なお9月入試出願に際しては、出願者は全員、必要書類を出願期間内に提出すること。

(注2) 出願に際しては、指導を志望する教員又はその教員が所属する領域代表の教員にあらかじめ問い合わせしておくこと。領域代表教員については、理学専攻の「担当教員及び主な授業科目」一覧を参照のこと。

IV. 担当教員及び主な授業科目

2020年6月1日現在

| 比較社会文化学専攻 Comparative Studies of Societies and Cultures | | 国際日本学領域 Japanese Studies in a Global Perspective | |
|---|--|---|--|
| 担当教員 Position Name | 授業科目 Main Subject | 研究テーマ又は研究分野 | |
| 教授 MORIYAMA Shin ☎(5691) | 応用言語学研究 Applied Linguistics | 【応用言語学】最近注目を浴びつつある認知言語学の知見などを取り入れながら、第二言語としての日本語習得のメカニズムを探り、あわせて教材開発や教授法など日本語教育への応用可能性について考える。 e-mail: moriyama.shin@ocha.ac.jp | |
| 教授 ASADA Toru ☎(5199) | 日本中世言語文化論 Japanese Literature and Culture in the Kamakura and Muromachi Periods | 【日本中世文学】平安末期から近世初期までの和歌を中心に、社会の中にシステムとして組み込まれた文芸のありかた（「勅撰和歌集」「歌道家」「古今伝授」等）を考察する。その他諸ジャンルにおける秘伝の成立などに関心を持っている。 e-mail: asada.toru@ocha.ac.jp | |
| 教授 MIYAUCHI Takahisa ☎(5797) | 日本民俗文化論 Japanese Folk Culture | 【日本民俗学、文化人類学】日本の民俗文化、主として建築文化と住生活について関心がある。特に日本における風水の受容について取り組んでいる。また、口頭伝承だけでなく、書籍、出版、読書生活、リテラシーを通して生活文化の中における文字文化の位相についても研究を進めている。 e-mail: miyauchi.takahisa@ocha.ac.jp | |
| 教授 KANDA Yutsuki ※☎(5182) | 日本近世史研究 Japanese Modern History | 【日本近世史】近世の都市や地域社会の構造を、芸能興行など文化的活動の場という視点から捉え直そうとしている。特に、都市や市場に集まる芸能民や商人、遊女、侠客などの集団に関心がある。 e-mail: kanda.yutsuki@ocha.ac.jp | |
| 教授 MIZUMURA Mayumi ☎(5264) | 舞踊文化分析論 Cultural Analysis of Dancing | 【身体運動科学】舞踊を含む身体運動全般を、生理学およびバイオメカニクス的手法により調査している。トレーニングや練習といったくり返しの運動によって、身体諸機能や動作が変容する可能性に関心をもっている。 e-mail: mizumura.mayumi@ocha.ac.jp | |
| 准教授 MATSUOKA Tomoyuki ☎(5200) | 日本中古言語文化論 Japanese Literature and Culture in the Heian Period | 【日本中古文学】『源氏物語』をはじめとする物語文学を中心に、中古文学（平安時代の文学）を研究している。言葉相互の関係に着目した作品解説を主眼とし、社会・制度の歴史や仏教思想と文学作品との関係なども追究している。 e-mail: matsuoaka.tomoyuki@ocha.ac.jp | |
| 准教授 TANIGUCHI Sachiyo ☎(5206) | 日本近代言語文化論 Japanese Modern Literature and Culture | 【日本近代文学】近代の日本文学における日本の古美術の受容とその影響を研究している。特に川端康成の文学における古美術の受容とその変容過程に関心がある。 e-mail: taniguchi.sachiyo@ocha.ac.jp | |
| 准教授 NISHIKAWA Tomomi ☎(5334) | 第二言語習得論 Second Language Acquisition | 【第二言語習得】大人・子どもの第二言語習得のメカニズムの解明を目指すとともに、その研究成果の日本語教育への応用を考える。 e-mail: nishikawa.tomomi@ocha.ac.jp | |
| 准教授 TAKEMURA Asuka ☎(5203) | 日本語分析論 Analysis of Japanese Language | 【日本語史】キリシタン資料や方言資料を用いて、日本語の変遷（主に音韻）について研究している。方言では近畿方言で書かれた上方落語を中心に扱い、語彙・文法に関しても考察している。また、中近世の能楽資料にみえる発音指南の記述にも関心がある。 e-mail: takemura.asuka@ocha.ac.jp | |
| 准教授 MIYASHITA Satoko ☎(5167) | 文化思想分析論 Japanese Culture and Thought | 【倫理学】倫理と心理と宗教の接点を探るといったテーマのもと、人間のあり方について人間の内面と超越的次元との関わりにおいて考察している。主として、ユング、フランクフル、フロム、キューブラー＝ロスといった精神科医、心理学者の思想を研究対象としているが、上記のテーマに関わる思想であれば、洋の東西を問わず、研究対象となり得る。 e-mail: miyashita.satoko@ocha.ac.jp | |
| 准教授 OYABU Umi ☎(5178) | 日本宗教社会史論 Japanese Historical Society and Religion | 【日本中世史】権力による支配構造の解明に取り組んでいる。朝廷や幕府といった中央権力に限定せず、地域権力も検討の対象とし、中央と地域との繋がりにも注目している。 e-mail: oyabu.umi@ocha.ac.jp | |
| 准教授 ISHII Kumiko ☎(5205) | 日本語情報論 Information Theory of Japanese Language | 【日本語学】近代から現代の日本語の語彙・表記について研究している。特に、外来語の受容と定着の様相に関心を持っている。 e-mail: ishii.kumiko@ocha.ac.jp | |
| 准教授 MOTOBAYASHI Kyoko ☎(5255) | 言語コミュニケーション論演習 Seminar: Language and Communication | 【社会言語学】社会における言語使用と言語思想のあり方についてミクロとマクロの両面から考察するとともに、言語教育の分野における応用を考える。 e-mail: motobayashi.kyoko@ocha.ac.jp | |
| 准教授 UMETADA Misa ☎(5782) | 日本伝統芸能論 Traditional Performing Arts | 【日本近世・近代演劇】河竹黙阿弥を中心に、幕末明治の歌舞伎及びそれと関係する演劇を研究している。 e-mail: umetada.misa@ocha.ac.jp | |
| 講師 FUJIKAWA Reman ☎(5202) | 日本近世言語文化論 Japanese Literature and Culture in the Edo Period | 【日本近世文学】秋里藤島を中心に、近世中後期上方の文学とこれに関わる出版文化について研究している。 e-mail: fujikawa.reman@ocha.ac.jp | |
| 講師 SAKURAI Yusuke ☎(5194) | 多文化間心理学研究 Multicultural Psychology | 【国際教育】グローバルな場で学ぶ大学留学生や若手研究者の学びや能力開発の質を評価し、国際化する大学教育の実践へ還元することを主な課題としています。 e-mail: sakurai.yusuke@ocha.ac.jp | |
| 助教 YUKAWA Fumihiko ☎(5179) | 日本近現代史研究 Study of Modern Japanese History | 【日本近現代史】日本の近代国家・社会の形成過程について、政治・外交・法制・教育・警察・司法などの観点から多角的に研究している。とくに明治維新の展開過程について中央・地方双方の視点から分析している。 e-mail: yukawa.fumihiko@ocha.ac.jp | |
| 言語文化領域 Language, Literature, and Culture | | | |
| 教授 MATSUZAKI Takeshi ☎(5223) | テクスト文化論 Text Culture | 【17世紀イギリス文学】詩を中心とする17世紀のテクストを、政治的・宗教的・社会史的な文脈に即して分析するとともに、ジャンル・検閲・読者層等のテクストを取り巻く文化との関連において読み直す作業を行っている。 e-mail: matsuzaki.takeshi@ocha.ac.jp | |
| 教授 WADA Hidenobu ☎(5217) | 中国言語芸術・批評論 Literary Criticism of China | 【中国古典文学】中国の詩と詩論について。とくに文学理論の表現形式に着目したアプローチを模索している。 e-mail: wada.hidenobu@ocha.ac.jp | |
| 教授 TOTANI Yoko ☎(5225) | アメリカ言語文化論 American Language and Culture | 【現代アメリカ演劇・パフォーマンス研究】現代アメリカ演劇・舞台芸術を対象にパフォーマンス研究の視点から研究。芸術実践および表象のポリテクスと社会との関わりに興味をもち、公共の文化芸術政策や制度との関わりにおいて分析。 e-mail: totani.yoko@ocha.ac.jp | |
| 教授 Diane Hawley Nagatomo ☎(5226) | 第二言語（英語）教育論 Second Language (English) Education Theory | 【英語教育論】Investigating issues surrounding identity, beliefs, and practices of second language teachers. e-mail: hawley.diane.edla@ocha.ac.jp | |
| 教授 NOGUCHI Tohru ☎(5228) | 文法理論 Grammatical Theory | 【文法理論】生成文法理論に基づき、統語論、意味論、形態論の諸分野の特性及び各部門間の関係を明らかにする。より具体的には、照応の問題を中心的な研究テーマとしている。 e-mail: noguchi.toru@ocha.ac.jp | |
| 教授 ITO Satomi ☎(5218) | 中国語圏言語文化論 Chinese Linguistics | 【中国語学】現代中国語の文法を形式言語学の視点から研究している。主なテーマは、疑問詞の照応的用法、形容詞の意味論、選択疑問文の研究など。 e-mail: ito.satomi@ocha.ac.jp | |

(注1) ◎は、2021年度末をもって退職予定であり、○は2022年度末をもって退職予定である教員である。

なお、2020年度末（2021年3月31日付）で定年退職予定の教員は記載されていない。

(注2) ※は、領域代表である。

(注3) GCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注4) *印の教員は、主任指導教員として志望できない。

| 比較社会文化学専攻 Comparative Studies of Societies and Cultures | | | |
|---|---|---|---|
| 言語文化論領域 Language, Literature, and Culture | | | |
| 担当教員 | 授業科目 | 研究テーマ又は研究分野 | |
| Position | Name | Main Subject | |
| 准教授 Associate Professor | GC 中西 公子 NAKANISHI Kimiko ☎(5222) | 形式意味論 Formal Semantics | 【意味論・語用論】人間が言語の意味を理解する仕組みを、「語の意味と文の意味の関係」と「文の意味と談話の関係」の考察を通して明確にする。諸言語の比較に基づき言語の普遍的特徴を探る一方で、個別言語の理解にも努める。 e-mail: nakanishi.kimiko@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GC 山腰 京子 YAMAKOSHI Kyoko ☎(5224) | 第一言語習得論 First Language Acquisition | 【第一言語習得】生成文法理論に基づき、主に子供の母語習得の仕組みを探る。主なテーマは疑問文、数量詞、受身と使役など。 e-mail: yamakoshi.kyoko@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GC 高桑 晴子 TAKAKUWA Haruko ☎(5227) | イギリス言語文化論 Language and Culture of Britain | 【イギリス・アイルランド小説】極めて近代的な文学形態である小説というジャンルを文化的・社会的文脈において分析する。19世紀のイギリスおよびアイルランド小説を主にネイションとジェンダーという文脈で研究する。 e-mail: takakuwa.haruko@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | ※ ** 小松 祐子 KOMATSU Sachiko ☎(5239) | 仏語圏文化論 Francophone Cultures | 【フランス語圏言語文化研究・フランス語教育学】フランス語圏の言語文化をフランス語の言語政策・教育学とあわせて研究している。近年はとくに北米フランス語圏・ベルギーを中心に研究中である。 e-mail: komatsu.sachiko@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GC Allen David Brian Allen David Brian ☎(5229) | 第二言語習得論研究 Second Language Acquisition | 【第二言語習得研究】第二言語の語彙習得における第一言語の影響に関する研究を主とする。第二言語教育とテスト理論に基づいた評価に関する研究。言語テストの波及効果 (washback) の研究もおこなっている。 e-mail: allen.david.brian@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | ** 田中 琢三 TANAKA Takuzo ☎(5241) | 仏語圏言語芸術論 Literary Art in French-speaking Countries | 【フランス近代文学】19世紀末から20世紀初頭のフランス文学と政治の関係、特に小説におけるイデオロギーの表象について研究している。 e-mail: tanaka.takuzo@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | ** 前田 佳一 MAEDA Keiichi ☎(5236) | 独語圏文化論 Language and Culture of German-speaking Countries | 【近現代ドイツ語圏文学】近現代のドイツ語圏文学、特に20世紀オーストリアの文学を中心に研究している。 e-mail: maeda.keiichi@ocha.ac.jp |
| 比較社会論領域 Comparative Social Studies | | | |
| 教授 Professor | 新井 由紀夫 ARAI Yukio ☎(5177) | 西洋中世史研究 Studies of Western Medieval History | 【イギリス中世史】14・15世紀の政治社会の在り方。とりわけ土地保有階層であるジェントリの社会的結合関係や、メンタリティー、中世ヨーロッパ古書体学などに関心がある。 e-mail: arai.yukio@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 安成 英樹 YASUNARI Hideki ☎(5181) | 西洋近世史研究 Studies of Western Modern History | 【フランス近世史】絶対王政期のフランス社会をフィールドとして、前近代ヨーロッパの政治的、社会的、国際的な特質を広く考究する。 e-mail: yasunari.hideki@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | ** 新名 謙二 NINA Kenji ☎(5268) | 比較スポーツマネジメント論 Comparative Sports Management | 【比較スポーツマネジメント論】スポーツ施設やスポーツ団体におけるマネージメント課題について、地域比較あるいは時間的比較という視点からの分析を行う。 e-mail: nina.kenji@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 三浦 謙 MIURA Ken ☎(5164) | 認識論・知識の哲学 Epistemology | 【科学哲学】哲学における認識論と、科学における方法論や理論形成の過程をもとに、認識や知識の根拠付けや限界についての問題を研究している。 e-mail: miura.ken@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 中野 裕考 NAKANO Hirotaaka ☎(5165) | 西洋近代哲学 Western Modern Philosophy | 【西洋近代哲学】カントを中心に、17・18世紀の西洋哲学において、知覚、認識、自己等の主題に関して、現代哲学の源流を探っている。 e-mail: nakano.hirotaaka@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | ** 戸川 貴行 TOGAWA Takayuki ☎(5176) | 東アジア古代史研究 Studies on Ancient History of East Asia | 【東アジア古代史研究】漢唐間の中国を中心として、古代東アジアの政治文化、国際秩序等の展開を新たな視点からとらえ直す。 e-mail: togawa.takayuki@ocha.ac.jp |
| 助教 Assistant Professor | ** 阿部 尚史 ABE Naofumi ☎(5184) | 西アジア史 History of West Asia | 西アジアでもとくにイランに焦点を当て、近世・近代における家族と女性の関係、ムスリム聖者廟、少数派 (アルメニア教徒)、及び文化史などを研究している。 e-mail: abe.naofumi@ocha.ac.jp |
| (教授) | 棚橋 訓 | 文化構造論 Cultural Structures | 担当専攻「ジェンダー学際研究専攻」ジェンダー論領域 比較文化ジェンダー論に同じ。 |
| 表象芸術論領域 Arts and Representational Studies | | | |
| 教授 Professor | 天野 知香 AMANO Chika ☎(5170) | 西洋美術論 Studies of Western Art History | 【西洋美術史】特に十九世紀後半から二十世紀前半にかけてのフランス美術と装飾芸術を中心に、社会における芸術の概念の位相とその変化をとらえながら、作品を取り巻く制度や批評的言説を考察し、個々の作品を分析する。フェミニズム美術史、視覚表象分析理論。 e-mail: amano.chika@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 小坂 圭太 KOSAKA Keita ☎(5278) | 器楽演奏論 Instrumental Music | 【ピアノ演奏】ピアノという西欧近代特有の思考を体現するような楽器の演奏を通じ、「古典」の概念の検証を行うと同時に、ほとんど西欧化と同義語になっている今日の文化の「グローバル化」について考察する。 e-mail: kosaka.Keita@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | ※ 鈴木 禎宏 SUZUKI Sadahiro ☎(5798) | 比較文化論 Comparative Study of Culture | 【比較文化論】「比較文化論」という方法論を構築する一方で、それをういた文化的事象の解明を目指す。 e-mail: suzuki.sadahiro@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | ** 中村 美奈子 NAKAMURA Minako ☎(5269) | 民族舞踊論 Ethnic Dances | 【民族舞踊学】インドネシア (バリ島) の舞踊を中心に、日本を含むアジア地域の民族舞踊の調査・研究を主な領域としている。理論と実践の両面からのアプローチを行い、舞踊記譜法などの分析手法を用いた舞踊の比較分析に関心を持っている。 e-mail: nakamura.minako@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | ** 新實 五穂 NIIMI Iho ☎(5802) | 西洋服飾論 Western Dress Cultures | 【西洋服飾史】19世紀フランスを中心に、ひとが服を身に着ける意味および服装における社会表象に関して分析し、人間の営為や時代の心性を明らかにすることを目指す。 e-mail: niimi.iho@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | ** 難波 知子 NAMBA Tomoko ☎(5800) | 服飾文化資源論 Costume and Cultural Resources | 【日本服飾史】特に明治以降の服飾変遷に着目し、洋服の導入・普及とともに生じた和服の再編成・再解釈など、服飾をめぐる近代的な価値観や生活様式の形成を明らかにする。 e-mail: namba.tomoko@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 井上 登喜子 INOUE Tokiko ☎(5281) | 音楽表象論 Musicology, Culture and Representation | 【音楽学】音楽が社会の中でどのように伝播・普及し、それがどのような意味を持つのかという音楽受容の問題に関して、近代ドイツと日本、そして今日のグローバル社会における西洋音楽受容を中心に、歴史的、実証的に考察する。 e-mail: inoue.tokiko@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | ** 土谷 真紀 TSUCHIYA Maki ☎(5169) | 比較芸術論 Comparative Study of Art | 【日本美術史】日本中世における絵画を中心に、作品の生成と享受の問題について物語、宗教といった視点から考察を行う。 e-mail: tsuchiya.maki@ocha.ac.jp |
| 助教 Assistant Professor | ** 福本 まあや FUKUMOTO Maaya ☎(5265) | 舞踊表現論 Theory of Dance Expression | 【舞踊表現論】舞踊の教育的意義、社会的意義に関する既存の研究に整理・再検討を加え、そこから新たな研究課題と研究方法を創出し、人間と舞踊の関わりを複眼的に考察する。 e-mail: fukumoto.maaya@ocha.ac.jp |

(注1) ◎は、2021年度末をもって退職予定であり、○は2022年度末をもって退職予定である教員である。

なお、2020年度末 (2021年3月31日付) で定年退職予定の教員は記載されていない。

(注2) ※は、領域代表である。

(注3) GCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注4) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。

(注5) () は、他専攻の兼任教員であり、本専攻では主任指導教員にはならない。

| 人間発達科学専攻 Human Developmental Sciences | | | |
|---|--|---|--|
| 教育学領域 Educational Sciences | | | |
| 担当教員 Position Name | 授業科目 Main Subject | 研究テーマ又は研究分野 | |
| 教授 YONEDA Toshihiko ☎(2554) | 教育史論 History of Education | 【教育制度・政策史】近・現代日本の教育制度の変遷、あるいは教育制度改革をめぐる議論や意思決定過程を対象とする制度・政策史研究や、制度・政策の浸透ないし実現過程の分析としての実態史研究を進めている。 e-mail: yoneda.toshihiko@ocha.ac.jp | |
| 教授 IKEDA Takeyuki ☎(5243) | 比較教育思想史論 Philosophy of Education | 【教育哲学】18世紀以降のドイツにおける人間形成論、とりわけ、ドイツ観念論や実在哲学やフランクフルト学派の思想を中心に、近代社会と理性の運命、そこから派生する人間的自由の成立条件や美の救済機能の検討を進めている。 e-mail: ikeda.takeyuki@ocha.ac.jp | |
| 教授 HAMANO Takashi ☎(5248) | 国際教育開発論 International Development and Education | 【国際教育開発・協力】アジア・アフリカを中心とした発展途上国における教育の現状、国際機関の役割、国際協力のあり方などを具体的に検討している。研究の成果を実際の国際協力の実践に活用できるよう、現場との連携を常に念頭においている。 e-mail: hamano.takashi@ocha.ac.jp | |
| 准教授 FUJIWARA Kie ☎(5472) | 教育方法学・カリキュラム論 Educational Methodology and Curriculum | 【カリキュラム論・教育方法学】近現代日本の学校教育において、公的な教育内容・方法の組織された教育課程と、個々の学校レベルあるいは日々の事業の実践として展開されているカリキュラムとの関係について研究を行っている。 e-mail: fujiwara.kie@ocha.ac.jp | |
| 心理学領域 Psychology | | | |
| 教授 SAKAMOTO Akira ☎(5257) | メディア心理学 Media Psychology | 【社会心理学】テレビ、ゲーム、インターネットなどの電子メディアが人間の行動や特性に及ぼす影響、また、その有効利用を中心に研究している。 e-mail: sakamoto.akira@ocha.ac.jp | |
| 教授 SUGAWARA Masumi ☎(5270) | 人格発達論 Personality Development | 【人格形成をめぐる発達環境論】主に乳児期から青年期までを対象として、パーソナリティの発達や精神病理の発現に関わる子どもの側の要因（遺伝子関連要因を含む）と養育・教育環境との関連についての研究。 e-mail: sugawara.masumi@ocha.ac.jp | |
| 教授 OMORI Mika ☎(2561) | 健康行動論 Research in Health Behavior | 【健康心理学・臨床心理学】心身の健康と心理社会的要因の関連に関する研究を主としている。特に青年期以降の（1）ヘルスリスク行動、健康促進行動、食行動、（2）感情、認知、ストレス、ストレスマネジメントの方法、に関わる問題を扱っている。 e-mail: omori.mika@ocha.ac.jp | |
| 准教授 UEHARA Izumi ☎(5259) | 発達心理学先端研究 Advanced Studies in Developmental Psychology | 【発達心理学】幼児期の認知発達の研究を中心に行っている。皆に共通する発達過程と環境や文化の影響を受けやすい発達過程に関心をもつ。 e-mail: uehara.izumi@ocha.ac.jp | |
| 発達臨床心理学領域 Developmental and Clinical Psychology | | | |
| 教授 GC IWAKABE Shigeru ☎(5780) | 人格システム論 Systems of Personality | 【カウンセリング心理学】①カウンセリングと心理療法の過程・効果研究。②異なる人格理論、心理療法理論の統合に関する研究。③臨床心理士の職業的発達に関する研究。④心理療法における感情変容。 e-mail: iwakabe.shigeru@ocha.ac.jp | |
| 准教授 TAKAHASHI Masaru ☎(5772) | 生涯発達臨床心理学 Life-span Development and Clinical Psychology | 【犯罪心理学】非行少年や犯罪者に対する心理学的な査定と介入について研究している。特に、①再犯リスクアセスメント、②トラウマと嗜物的行動、③自傷と他害に関心がある。 e-mail: takahashi.masaru@ocha.ac.jp | |
| 准教授 ISHIMARU Keiichiro ☎(5187) | 青少年臨床論 Clinical Approach to Adolescence | 【臨床心理学】LGBTQとの共生について心理学的に検討している。特に、性別違和の測定、職場や学校での支援、認知行動療法の実用など。 e-mail: ishimaru.keiichiro@ocha.ac.jp | |
| 社会学・社会政策領域 Sociology and Social Policies | | | |
| 教授 SAKAMOTO Kazue ☎(5172) | 社会コミュニケーション論 Social Communication | 【社会学（社会意識論、家族論、コミュニケーション論）】人々の意識と社会の変化との関係を理論的・実証的に究明する。人々の日常行動及びメディアを媒介としたコミュニケーションによって、アイデンティティ、家族、ジェンダー、共同体などがどのように構築され、変化していくかを研究する。 e-mail: hashimoto.sakamoto.kazue@ocha.ac.jp | |
| 教授 KOTANI Masao ☎(5787) | 比較法社会論 Comparative Studies on Society and Law | 【比較法史】<生活>の比較法社会史・比較法文化史及びトランス・サイエンス論研究。特にイタリアを専門的フィールドとする。 e-mail: kotani.masao@ocha.ac.jp | |
| 教授 OMORI Masahiro ☎(5987) | 生活者環境論 Social Science in Human Environments | 【公共経済学・医療経済学】医療・介護制度を資源配分、所得分配の観点から分析し、望ましい医療・介護制度のあり方を考える。医療・介護制度の国際比較も行う。 e-mail: omori.masahiro@ocha.ac.jp | |
| 教授 SUGINO Isamu ☎(5171) | 社会科学方法論 Social Science Methodology | 【理論社会学・社会調査論】紛争や階層についての理論的考察と実証的調査研究、社会科学方法論や社会調査法研究。 e-mail: sugino.isamu@ocha.ac.jp | |
| 准教授 NISHIMURA Junko ☎(5788) | 家族変容論 Family Sociology | 【家族社会学】家族関係の変容とそのダイナミクスに関する実証的研究。特に、仕事と家族生活、子育てに関わる現象についての社会学的研究をおこなっている。 e-mail: nishimura.junko@ocha.ac.jp | |
| 保育・児童学領域 Child Studies | | | |
| 教授 KODAMA Ryoko ☎(5342) | 教育文化論 Cultural Studies in Education | 【比較教育文化論】次世代育成に関わる文化の総体を教育文化ととらえ、幼児教育と家庭教育を中心とした比較教育文化/社会史・子ども社会学的研究を行っている。 e-mail: kodama.ryoko@ocha.ac.jp | |
| 教授 HAMAGUCHI Junko ☎(5826) | 保育関係論 Relations in Early Childhood Care and Education | 【保育学・幼児教育学】保育・教育現場と協働する多義的な保育者養成のプロセスと方法、理論を考える。子ども観、保育思想の人間学的研究。 e-mail: takeuchi.hamaguchi.junko@ocha.ac.jp | |
| 准教授 GYOBU Ikuko ☎(5527) | 幼児教育論 Early Childhood Education | 【幼児教育学・発達心理学】保育・教育実践の現場に関心を持ち、学習論・発達論の観点から保育・教育に関する実践的研究を行っている。 e-mail: gyobu.ikuko@ocha.ac.jp | |

(注1) ◎は、2021年度末をもって退職予定であり、○は2022年度末をもって退職予定である教員である。

なお、2020年度末（2021年3月31日付）で定年退職予定の教員は記載されていない。

(注2) ※は、領域代表である。

(注3) GCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注4) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。

| ジェンダー学際研究専攻 Interdisciplinary Gender Studies | | | ☎ 03-5978- (下記☎参照) |
|--|--|---|--|
| ジェンダー論領域 Interdisciplinary Gender Studies | | | |
| 担当 Position | 教員 Name | 授業科目 Main Subject | 研究テーマ又は研究分野 |
| 教授 GC Professor | 永瀬 伸子 NAGASE Nobuko ☎(5786) | 労働論 Labor Economics | 【労働経済学】就業行動、家庭内生産活動など、仕事をめぐる選択行動を経済理論を用いて分析の枠組みをつくり、先験的な予想を立て、統計等を用い実証的に分析することを専門とする。主な領域は「仕事」の選択行動であるが、出産、教育、結婚等の選択もこの枠組みで扱うこともできる。質的研究も行う。 e-mail: nagase.nobuko@ocha.ac.jp |
| 教授 GC Professor | 棚橋 訓 TANAHASHI Satoshi ☎(5251) | 比較文化ジェンダー論 Comparative Studies on Culture and Gender | 【文化人類学、ジェンダー文化論】文化人類学の視点から、近現代の異文化混雑の過程に生じるジェンダー秩序の再編に関する研究、社会変動とセクシュアリティ変容に関する研究、「第三のジェンダー」に関する研究を行っている。主なフィールドはオセアニアと日本。 e-mail: tanahashi.satoshi@ocha.ac.jp |
| 教授 GC Professor | 小林 誠 KOBAYASHI Makoto ☎(5254) | 地域開発論 Local Development | 【国際政治学、国際関係学】グローバル化による国際システムの変容を理論的・実証的に研究。特に、非国家アクターが台頭し、地球市民社会が形成され始めて、中央・周辺関係が変化する一方で、新たな暴力の形態が生まれていることに注目。 e-mail: kobayashi.makoto@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 水野 勲 MIZUNO Isao ☎(5188) | 地域分析論 Regional Analysis | 【数理地理学、経済地理学】地域不均衡の累積過程のモデリング、地域統計の分析、地図化を通じて、経済地理的事象の説明を行っている。フェミニスト地理学における量的研究と質的研究の議論にも関心がある。 e-mail: mizuno.isao@ocha.ac.jp |
| 教授 GC Professor | 申 琪榮 Shin Ki-young ☎(5843) | 比較政治論 Comparative Politics | 【ジェンダーと政治、日韓比較政治、フェミニズム理論】これまでの主な研究は家族法改正を目指す女性運動の日韓比較、ジェンダー・クォーター、ジェンダー主流化政策、Transnational Feminismなど。 e-mail: shin.kiyoung@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 斎藤 悦子 SAITO Etsuko ☎(5986) | 生活経済論特論 Household Economics | 【生活経済学、生活経営学】家計、生活時間をジェンダーの視点から分析する。特に雇用労働者世帯を扱い、企業と生活者の関係性に注目している。現在は、生活者が「企業の社会的責任」に関係していくかを検討している。 e-mail: saito.etsuko@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 荒木 美奈子 ARAKI Minako ☎(5190) | 地域開発論 Local Development | 【開発研究、アフリカ地域研究】研究関心は、地域研究に基づく開発実践・研究、内発的發展、参加型開発、グローバル化による地域社会の変容などである。タンザニアを主なフィールドとしている。 e-mail: araki.minako@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 宮澤 仁 MIYAZAWA Hitoshi ☎(5195) | 福祉地理学 Welfare Geography | 【都市地理学、福祉地理学、地理情報システム (GIS)】人口減少・少子高齢化に伴う都市・地域の問題を地理情報システムと地域分析手法を用いて分析し、生活・福祉の視点から課題解決に取り組む。 e-mail: miyazawa.hitoshi@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ※ | 長谷川 直子 HASEGAWA Naoko ☎(5196) | 環境地理学 Environmental Geography | 【自然地理学・陸水学】気候変動（とくに温暖化）が湖に与える影響の解明。湖へ流入する水の挙動を観測により解明する。環境問題や地理的視点の一般社会への普及の検討。 e-mail: hasegawa.naoko@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor GC ** | デ アウカンタラ マルセロ DE ALCANTARA Marcelo ☎(2084) | 比較家族法論 Comparative Family Law | 【家族法・比較法】親子法について、特に生殖補助医療に関連して生じた諸問題に関する研究を行っている。日本の家族法と諸外国の家族法との比較研究も行っている。家族法と国際化、家族法とジェンダーの問題にも関心がある。 e-mail: marcelo.de.alcantara@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor GC | 大橋 史恵 OHASHI Fumie ☎(5341) | ジェンダー政治経済学 Gender and Political Economy | 移住家事・ケア労働者の就労や生存をめぐる諸課題や彼女たちの社会運動について、主に中国・香港・台湾・日本でフィールドワークをおこないながら研究を進めている。またポスト冷戦期東アジアのジェンダー秩序や、そのなかで生起するトランスナショナルなフェミニズム運動にも関心をもっている。 e-mail: ohashi.fumie@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ** | 倉光 ミナ子 KURAMITSU Minako ☎(2612) | 地域研究論 Area Studies Methodology | 【文化地理学、オセアニア地域研究】最近の研究関心は、オセアニア地域研究、特にグローバル化によるジェンダーと慣習への影響、移民女性の子育てなど。主なフィールドはサモアとニュージーランド。 e-mail: kuramitsu.minako@ocha.ac.jp |
| (教授) | 小玉 亮子 | ジェンダー理論文化学 Cultural Studies and Gender Theory | 【ジェンダー理論・ジェンダー史・比較文化/社会史】近現代思想をジェンダーの視点から再検討すると同時に、歴史の中で、ジェンダーがどのように構築されてきたかを検討している。 |

(注1) ◎は、2021年度末をもって退職予定であり、○は2022年度末をもって退職予定である教員である。

なお、2020年度末（2021年3月31日付）で定年退職予定の教員は記載されていない。

(注2) ※は、領域代表である。

(注3) GCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注4) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。

(注5) () は、他専攻の兼任教員であり、本専攻では主任指導教員にはならない。

| ライフサイエンス専攻 Life Sciences | | | |
|---|---|--|--|
| 生命科学領域 Biological Sciences | | | |
| 担当教員 Position Name | 授業科目 Main Subject | 研究テーマ又は研究分野 | |
| 教授 GC Professor ※ (5370) | 千葉 和義 CHIBA Kazuyoshi 細胞・発生生物学 Advanced Cell and Developmental Biology | 【細胞・発生生物学】減数分裂や受精、初期発生過程において、細胞内外の情報伝達にどのように伝達され、発生が制御されているのかについて研究している。 e-mail: chiba.kazuyoshi@ocha.ac.jp | |
| 教授 GC Professor ※ (5514) | 由良 敬 YURA Kei 計算構造生物学 Computational Structural Biology | 【生命情報学】ゲノム塩基配列、タンパク質立体構造情報、タンパク質などの相互作用情報が膨大に収集されるようになった。これらの情報を利用して、タンパク質がどのようにDNAやRNA、低分子などと相互作用することで、セントラルドグマなどの機構を実現しているかを、計算生物学的に明らかにしていくことを目指す。 e-mail: yura.kei@ocha.ac.jp | |
| 教授 GC Professor ※ (5293) | 加藤 美砂子 KATO Misako 植物分子生理学 Plant Molecular Physiology | 【植物分子生理学】植物に特有の代謝系に焦点をあて、その調節機構を遺伝子発現のレベルから解析している。特に植物の二次代謝系や脂質合成系を制御する分子機構に着目して研究を進めている。 e-mail: kato.misako@ocha.ac.jp | |
| 教授 GC Professor ※ (5579) | 服田 昌之 HATTA Masayuki 生物圏科学 Biosphere Science | 【進化生態遺伝学】海洋動物の進化史を遺伝・生態の側面から明らかにする。サンゴ礁生物の多様性やサンゴ修復技術についても研究している。 e-mail: hatta.masayuki@ocha.ac.jp | |
| 教授 GC Professor ※ (5356) | 高田 智 SHIMADA Satoshi 構造植物科学 Structure of Plant Sciences | 【多様な生物学】どのような生物種がどこに存在しているのか？そもそも、どうやって生物は多様化してきたのか？という生物多様性に関する素朴な疑問を明らかにしたいと考えている。 e-mail: shimada.satoshi@ocha.ac.jp | |
| 教授 GC Professor ※ (0470-29-0838) | 清本 正人 KIYOMOTO Masato 発生機構学 Developmental Mechanics | 【発生生物学】棘皮動物を材料に、初期発生における細胞の分化や形態形成のメカニズムを明らかにする。具体的には、ウニ胚の骨片形成細胞の分化における誘導因子や細胞間の相互作用について、培養系を使って研究している。 e-mail: kiyomoto.masato@ocha.ac.jp | |
| 准教授 GC Associate Professor ※ (5363) | 宮本 泰則 MIYAMOTO Yasunori 分子細胞生物学 Molecular Cell Biology | 【分子細胞生物学】動物細胞の細胞外マトリックスと細胞との接着を担っている細胞接着分子について、細胞接着分子が増殖・分化に及ぼす影響を分子レベルで解明している。特に細胞接着分子の中でもビトロネクチンに着目し、神経細胞における発現と神経分化に対する作用機構解明を試みている。 e-mail: miyamoto.yasunori@ocha.ac.jp | |
| 准教授 GC Associate Professor ** (5372) | 近藤 るみ KONDO Rumi 進化多様性 Evolution and Diversity | 【分子進化】生物の多様性と進化の問題を分子レベルで明らかにする。特に遺伝子の発現レベル(トランスクリプトーム)の多様性と進化に着目した研究を進めている。 e-mail: kondo.rumi@ocha.ac.jp | |
| 准教授 GC Associate Professor ※ (5713) | 植村 知博 UEMURA Tomohiro 細胞膜機能学 Molecular Membrane Biology | 【細胞膜機能学】真核細胞のオルガネラの膜ダイナミクスと生理機能を明らかにする。ライブイメージングによる観察によって研究を進める。 e-mail: uemura.tomohiro@ocha.ac.jp | |
| 助教 GC Assistant Professor ** (5377) | 佐藤 敦子 SATO Atsuko 環境発生進化化学 Environment Development & Evolution | 【発生進化化学】生物の発生が環境にどう変化し、どう進化するのか。大量データ解析と発生進化化学的手法を用いて解明する。 e-mail: sato.atsuko@ocha.ac.jp | |
| 助教 GC Assistant Professor ** (5303) | 毛内 拓 MONAI Hiromu 生体応答ダイナミクス Dynamics in Biological Responses | 【生体組織機能学】脳が生きているとはどういうことか？生きた脳組織が機能する基礎原理について、非シナプスの相互作用の観点から解明を試みている。 e-mail: monai.hiromu@ocha.ac.jp | |
| 客員教授 Visiting Professor (東京都医学総合研究所) | 田中 啓二 TANAKA Keiji 生体防御システム Biophylaxis System | 細胞内リサイクル装置であるプロテアソームやオートファジーについて分子から個体レベルまで多面的に解析し、神経細胞の恒常性を維持する機構について研究している。 e-mail: tanaka-kj@igakuken.or.jp | |
| 客員教授 Visiting Professor (東京都医学総合研究所) | 正井 久雄 MASAI Hisao 分子生物学 Molecular Biology | 【分子生物学】ゲノム複製の分子メカニズムの解明を基盤に、ゲノムの継承、安定性維持のメカニズム、その破綻によるがん細胞の形成などについて研究している。ゲノムの新しい機能シグナルとしての、グアニン4重鎖構造など、非標準型DNA構造の生物学的意義の解明も目指している。 e-mail: masai-hs@igakuken.or.jp | |
| 客員教授 Visiting Professor (東京都医学総合研究所) | 小野 弥子 ONO Yasuko シグナル伝達機構 Biological Signaling Mechanism | 細胞内の調節的タンパク質切断酵素「カルパイン」の生理機能と構造機能相関について研究している。 e-mail: ono-ys@igakuken.or.jp | |
| 客員教授 Visiting Professor (国立研究開発法人 産業技術総合研究所) | Martin Frith ゲノム情報学 Genome Informatics | 【ゲノム情報学】コンピューターを利用した統計モデルにもとづき、比較ゲノミクスの手法を用いて、ゲノム塩基配列から機能および進化に関する情報を読み解く研究を進めている。 e-mail: m.frith@aist.go.jp | |
| 客員准教授 Visiting Associate Professor (国立研究開発法人 産業技術総合研究所) | 油谷 幸代 ABURATANI Sachiyo 生体ネットワーク解析学 Biological Network Analysis | 【バイオインフォマティクス】生体細胞内における遺伝子間の制御関係の解明を目的とし、マイクロアレイデータなどの網羅的遺伝子発現プロファイルデータからの遺伝子ネットワーク推定手法の開発、および開発した手法を適用してモデル生物における遺伝子発現解析を行っている。 e-mail: s.aburatani@aist.go.jp | |
| 客員准教授 Visiting Associate Professor (特定国立研究開発法人 理化学研究所) | 前川 素子 MAEKAWA Motoko 生体分子科学 The Structure and Function of Biomolecules | 各種DNA解析、モデル動物、ヒト生体試料等を用いた多角的なアプローチにより、発達障害(自閉症等)や統合失調症等の精神疾患の感受性遺伝子同定や機能、治療や予防に繋がるメカニズムについて研究している。 e-mail: motoko.maekawa@riken.jp | |
| (教授) | 相川 京子 | 担当専攻「理学専攻」 化学・生物化学領域 細胞機能学と同じ | |

(注1) ◎は、2021年度末をもって退職予定であり、○は2022年度末をもって退職予定である教員である。

なお、2020年度末(2021年3月31日付)で定年退職予定の教員は記載されていない。

(注2) ※は、領域代表である。

(注3) GCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注4) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。

(注5) () は、他専攻の兼任教員であり、本専攻では主任指導教員にはならない。

| ライフサイエンス専攻 Life Sciences | | | ☎ 03-5978- (下記☎参照) |
|---|------------------------------|--|--|
| 食品栄養科学領域 Food and Nutritional Sciences | | | |
| 担当教員 | 授業科目 | 研究テーマ又は研究分野 | |
| Position | Name | Main Subject | |
| 教授 GC ○ ☎(5752) | 藤原 葉子 FUJIWARA Yoko | 分子栄養学 Molecular Nutrition | 【栄養化学、脂質栄養学】食品成分と動脈硬化症をはじめとする生活習慣病との関連に関心がある。特に多価不飽和脂肪酸や脂溶性ビタミンの生理機能研究を行っている。 e-mail: fujiwara.yoko@ocha.ac.jp |
| 教授 GC ☎(5757) | 森光 康次郎 MORIMITSU Yasujiro | 食品生理機能学 Studies on Food Functionality | 【食品機能化学】近年、食品起源の生体調節機能因子が注目され、その重要性が広く一般にも認識されるようになった。身近となった抗酸化物質から生活習慣病予防効果を示しうる食用植物由来の生体活性物質について、有機化学的・生化学的研究を中心に行っている。 e-mail: morimitsu.yasujiro@ocha.ac.jp |
| 教授 GC ☎(5680) | 赤松 利恵 AKAMATSU Rie | 食行動学 Eating Behavior | 【栄養教育学】人の食行動に関わる要因について、心理社会的観点から検討し、よりよい生活習慣を獲得するための方法を研究している。 e-mail: akamatsu.rie@ocha.ac.jp |
| 教授 GC ※ ☎(5474) | 飯田 薫子 IIDA Kaoruko | 栄養臨床医学・疫学 Lecture on Clinical Nutrition | 【応用栄養学、生活習慣病学】生体内における糖や脂質の代謝機構について生活習慣病との関連性から研究を行っている。 e-mail: iida.kaoruko@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ☎(5448) | 須藤 紀子 SUDO Noriko | 国際公衆栄養学 International Public Health Nutrition | 【公衆栄養学】災害時の食生活支援のための体制整備に関する研究を行っている。 e-mail: sudo.noriko@ocha.ac.jp |
| 講師 GC ☎(5750) | 市 育代 ICHI Ikuyo | 臨床栄養学 Clinical Nutrition | 【臨床栄養学】脂質の代謝異常は生活習慣など様々な疾患の発症に関わっている。病態における脂質の変動と疾病との関連について研究を行っている。 e-mail: ichi.ikuyo@ocha.ac.jp |
| 助教 Assistant Professor ** ☎(5754) | 佐藤 瑠子 SATO Yoko | 給食品質管理論 Quality control of food services | 【給食経営管理】給食を生産する際の食品の物理的・化学的な変化を把握し、品質管理の手法を提案するための研究を行っている。 e-mail: sato.yoko@ocha.ac.jp |
| 客員教授 Visiting Associate Professor (国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構) | 久城 真代 KUSHIRO Masasyo | 食品安全管理学 Food Safety | 【食品安全管理学】カビ毒を含めた食品の安全管理に関する研究。 e-mail: kushiro@affrc.go.jp |
| 客員准教授 Visiting Associate Professor (国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構) | 根井 大介 NEI Daisuke | 食品バイオテクノロジー Food Biotechnology | 【食品バイオテクノロジー】食品の技術開発（衛生管理、リスク検出・低減、加工技術等）に関する研究を行っている。 e-mail: nei@affrc.go.jp |
| 遺伝カウンセリング領域 Genetic Counseling | | | |
| 教授 GC ※ ☎(5587) | 三宅 秀彦 MIYAKE Hidehiko | 遺伝カウンセリング論 Guide to Genetic Counseling | 【臨床遺伝学、遺伝カウンセリング学】出生前診断を中心とした遺伝に関わる問題に対して、遺伝カウンセリングや教育、社会啓発に関する研究を行っている。 e-mail: miyake.hidehiko@ocha.ac.jp |
| 助教 Assistant Professor ** ☎(5742) | 佐々木 元子 SASAKI Motoko | ゲノム遺伝学 Genetics and Genomics | 【遺伝カウンセリング学、遺伝教育】遺伝カウンセリング全般に対する問題と、遺伝教育や社会啓発に関する研究を行っている。 e-mail: sasaki.motoko@ocha.ac.jp |

(注1) ◎は、2021年度末をもって退職予定であり、○は2022年度末をもって退職予定である教員である。

なお、2020年度末（2021年3月31日付）で定年退職予定の教員は記載されていない。

(注2) ※は、領域代表である。

(注3) GCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注4) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。

| 理学専攻 Advanced Sciences | | | ☎ 03-5978- (下記☎参照) |
|---------------------------------------|---------------------------|---|--|
| 数学領域 Mathematics | | | |
| 担当教員 | 授業科目 | 研究テーマ又は研究分野 | |
| Position | Name | Main Subject | |
| 教授 GC ※ ☎(5357) | 横川 光司 YOKOGAWA Koji | ホモトピー数学 Homotopical Mathematics | 従来の等号をベースにした数学から同値をベースとしたものへ移行したものがホモトピー数学である。ホモトピー数学により、これまで見ていなかった数学構造が捉えられる。研究テーマはこのホモトピー数学の論理的基礎づけとその幾何学への応用である。 e-mail: yokogawa.koji@ocha.ac.jp |
| 教授 GC ◎ ☎(5310) | 中居 功 NAKAI Isao | 特異点論 Singularities in Maps and Dynamical Systems | 微分方程式の解の幾何学的な振舞いを理解することを目的としている。そのために、微分方程式を複素力学系とみなし、力学系の研究の方法を応用する。また計算機による様々な数値実験もする。また、解の大域的振舞いとともの特異点のまわりにおける挙動を調べる。 e-mail: nakai.isao@ocha.ac.jp |
| 教授 GC ☎(2712) | 萩田 真理子 HAGITA Mariko | 組み合わせ構造論 Combinatorial Structure | 【離散数学】M系列、差集合、ブロックデザイン、符号などの離散構造の存在性についての理論研究と、グラフ彩色、擬乱数、暗号など情報セキュリティのための離散数学の応用研究を行っている。 e-mail: hagita.mariko@ocha.ac.jp |
| 教授 GC ☎(5298) | 竹村 剛一 TAKEMURA Kouichi | 数理解析論 Mathematical Analysis | 【可積分系、特殊関数】可積分系と関係する複素変数の微分方程式や差分方程式の研究を行い、特定の系に対する理解の深化などの応用を目指す。関連して、楕円関数や超幾何関数に代表される特殊関数自体の研究も行う。 e-mail: takemura.kouichi@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ☎(5305) | 戸田 正人 TODA Masahito | 大域幾何構造論 Global geometry | 位相構造など空間の大域的性質を距離構造や複素構造などの空間上の幾何構造との関連から研究する。多様体などの位相構造の分類を行なうことを目的として、幾何構造上で展開される解析学を援用して、空間に生ずる特異性の解析を行なう。 e-mail: toda.masahito@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ☎(5300) | 久保 隆徹 KUBO Takayuki | 関数解析特論 Functional Analysis | 流体力学などに現れる現象を記述する様々な偏微分方程式に関する数学解析を行っている。フーリエ解析や、関数解析的・数値解析的な手法で現象の数学的理解を目指す。 e-mail: kubo.takayuki@ocha.ac.jp |

(注1) ◎は、2021年度末をもって退職予定であり、○は2022年度末をもって退職予定である教員である。

なお、2020年度末（2021年3月31日付）で定年退職予定の教員は記載されていない。

(注2) ※は、領域代表である。

(注3) GCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注4) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。

| 物理学領域 Physics | | 研究テーマ又は研究分野 | |
|--------------------------------------|--|--|---|
| 担当 | 教員 | 授業科目 | |
| Position | Name | Main Subject | |
| 教授 Professor | GC 森川 雅博 MORIKAWA Masahiro ☎(5312) | 宇宙天体物理学 Physical Cosmology | 【宇宙論】初期宇宙の相転移のダイナミクス。場の理論・非平衡統計力学などの手法も利用する。宇宙の波動関数・ブラックホールからの輻射・量子コヒーレンスと古典化・観測的宇宙論も含む。 e-mail: morikawa.masahiro@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 小林 功佳 KOBAYASHI Katsuyoshi ☎(5314) | ナノスケール物理 Nano-Scale Physics | 【メゾからナノスケールの物理、表面物理】最近の微細加工技術や走査プローブ顕微鏡等の進歩により、原子やナノのスケールでの物性測定や人工構造物の作成が可能になった。このスケールに特有の新たな物理現象を探る目的で理論的な立場から研究を行っている。 e-mail: kobayashi.katsuyoshi@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | ※ 奥村 剛 OKUMURA Ko ☎(5321) | ソフトマテリアルズ物理 Physics of Soft Materials | 【ソフトマター物理・化学物理】理論と実験の両面から、ゲル、液晶、破壊、粘弾性、表面張力、濡れ、粉粒体などをキーワードにソフトマター物理学の研究をしている。場の理論、経路積分、非平衡統計力学などの手法を基盤にした、溶液の多次元レーザ分光理論ももうひとつの研究の柱である。 e-mail: okumura.ko@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GC 出口 哲生 DEGUCHI Tetsuo ☎(5322) | 非線形現象解析 Analysis of Nonlinear Phenomena | 【数理物理学・物性基礎論】非線形性は多様な自然現象の中で重要な役割を果たす。非線形性のために系は単なる部分の和でない、全体として特有の性質を示す。ソリトンの逆散乱法やペーア近似などの数理物理学の手法を用いて、水面の波動、量子スピン系の厳密解、結び目と物理、高分子など幅広いテーマを総合的に研究する。 e-mail: deguchi.tetsuo@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GC 古川 はづき FURUKAWA Hazuki ☎(5317) | 強相関物理 Strongly correlated electron system | 【強相関電子系の研究】強相関電子系の物理という観点から、(1) 金属間化合物超伝導体RENi2B2C (RE=Y, Ho, Er, Dy, Yb, etc.) (2) 巨大磁気抵抗効果を示すペロブスカイト型Mn 化合物 (3) 銅を含まない酸化超伝導体Sr2RuO4 系とその関連物質 (Sr, Ca)2RuO4 系という3つの系を研究する。 e-mail: furukawa.hazuki@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 番 雅司 BAN Masashi ☎(5326) | 統計物理学 Statistical Physics | 【量子情報・非平衡統計力学】量子情報のダイナミクスを非平衡統計力学的手法を用いて研究する。また、情報という概念を用いて量子力学の測定の問題や統計力学の不可逆性に関する問題を研究する。更に、物理と情報の両面から量子通信システムの様々なプロトコルの研究に取り組む。 e-mail: ban.masashi@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GC 曹 基哲 CHO Gi-Chol ☎(5330) | ゲージ理論 Gauge Theory | 【素粒子物理学理論】電弱相互作用、強い相互作用を記述するゲージ理論に基づき、高エネルギー領域における素粒子現象を研究する。超対称性の存在、質量の生成機構、高次元空間の可能性等を検証するための研究も行う。 e-mail: cho.gichol@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 北島 佐知子 KITAJIMA Sachiko ☎(5941) | 統計物理学 Statistical Physics | 【量子情報・非平衡統計力学】量子情報の理論的研究を行う。また、非平衡ダイナミクスの視点から量子系の基礎的諸問題の解明に取り組む。 e-mail: kitajima.sachiko@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GC 河野 能知 KONO Takanori ☎(2057) | 高エネルギー物理 High Energy Physics | 【素粒子物理学実験】CERNで行われている高エネルギー陽子・陽子衝突実験ATLASに参加して、最高エネルギーでの素粒子現象の測定および新粒子の探索などの研究を行っている。また半導体飛跡検出器の開発も行っている。 e-mail: kono.takanori@ocha.ac.jp |
| 講師 Lecturer | ** 左右田 稔 SODA Minoru ☎(5319) | 磁性体特論 Advanced Magnetism | 【固体物性】磁性・強相関電子系における実験的研究を行う。磁気秩序と強誘電性が共存するマルチフェロイクスの起源解明や幾何学的フラストレーション磁性体・低次元磁性体等における新規磁性相の探索に取り組む。 e-mail: soda.minoru@ocha.ac.jp |
| 化学・生物化学領域 Chemistry and Biochemistry | | | |
| 教授 Professor | GC 廣野 景子 TAKANO Keiko ☎(5338) | 複雑系量子化学 Quantum Chemistry of Complex Systems | 【理論化学、計算化学】分子およびその集合体の構造や機能、化学反応の機構、分子間相互作用について、量子化学的手法に基づきシミュレーション計算により研究を行う。生命科学分野、物質材料分野への応用研究として、糖鎖科学、有機金属化学、クラスター科学における諸問題に取り組む。 e-mail: takano.keiko@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GC 山田 眞二 YAMADA Shinji ☎(5349) | 有機反応設計 Design of Organic Reaction | 【合成有機化学、構造有機化学】有機分子の構造と反応に関する基礎的研究を行い、それらに基づき有機分子を自在に構築するために必要な、位置、立体、官能基選択性を制御する新しい方法について研究する。 e-mail: yamada.shinji@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GC 近藤 敏啓 KONDO Toshihiro ☎(5347) | ナノ界面化学 Nano-Interfacial Chemistry | 【ナノ界面物理化学・分析電気化学】電気化学反応(電極/溶液界面の電子移動反応)を定量的に理解することおよび燃料電池やセンサーなどのナノテクノロジーにつながる分子デバイスを開発することを目的として、原子・分子のレベルで構造制御した界面を構築し、電子移動反応を制御するとともに、界面の構造変化をその場追跡する。 e-mail: kondo.toshihiro2@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GC 森 義仁 MORI Yoshihito ☎(5346) | 複雑系分析化学 Analytical Chemistry of Complex Systems | 【非平衡系化学】非線形領域の非平衡系の現象として特有のリズムまたはパターン形成の動的特徴の解析を実験または数値解析を用いて進める。非平衡化学の応用として自然環境問題を取り上げる。 e-mail: mori.yoshihito@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GC 相川 京子 AIKAWA Kyoko ☎(5345) | 細胞機能化学 Cellular Biochemistry | 【生化学、分子生物学】糖鎖とタンパク質の相互作用を分子レベルで理解することや、糖鎖結合タンパク質(レクチン)の生体内での機能を明らかにすることを目的に研究を行い、基礎医学や創薬への応用にも取り組む。 e-mail: aikawa.kyoko@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GC 棚谷 綾 TANATANI Aya ☎(2716) | 超分子構造化学 Advanced Supramolecular Chemistry | 【構造有機化学・医薬化学】芳香族有機分子の立体特性や集合体形成を基盤として、新規機能性分子を創製する。また、生理活性物質の設計、合成へと応用し、疾患治療を目指したケミカルバイオロジー研究をおこなう。 e-mail: tanatani.aya@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GC 矢島 知子 YAJIMA Tomoko ☎(5715) | 機能性有機化学 Functional Organic Chemistry | 【合成有機化学・有機フッ素化学】新規有機合成法を開発し、その手法を用いて合成した化合物の機能の探索を行う。特に有機フッ素化合物に着目し、医薬品、機能性有機材料等への応用を目指す。 e-mail: yajima.tomoko@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | ** 宮崎 充彦 MIYAZAKI Mitsuhiro ☎(5717) | 量子物性化学特論 | 【物理化学、分子分光学】分子間の凝集構造の解明、分子運動・化学反応のダイナミクスについて、分光測定を主たる手段とした実験的研究を行う。複数のレーザー光を利用した電子・振動分光、時間分解分光を気相分子クラスターに適用し、理論計算も援用しつつマイクロな視点から化学現象の解明を目指す。新たな分光法、光源の開発など新規研究手法の開発にも取り組む。 e-mail: miyazaki.mitsuhiro@ocha.ac.jp |
| 講師 Lecturer | GC 伊村 くらら IMURA Clara ☎(5291) | ナノ界面化学 Nano-Interfacial Chemistry | 【機能性ナノ材料、コロイド・界面化学】界面化学の視点から、触媒材料、光学材料へつながる金属ナノ結晶の形態制御とその機構解明を行う。さらに、分子間相互作用にもとづく低分子化合物とのハイブリッド材料を構築し、分野横断的なアプローチからの新規な機能性開拓にも積極的に取り組む。 e-mail: imura.clara@ocha.ac.jp |
| 講師 Lecturer | GC 三宅 亮介 MIYAKE Ryosuke ☎(2649) | 構造分子科学 Structural Molecular Science | 【固体化学・超分子化学】金属錯体をデザインし、さらに構造変換に基づき物性変換することにより省エネルギー・高効率の機能創出を目指しています。分子レベルでの観測・理解に基づいて、精密な機能設計・制御を行います。特に構造特性やデザイン性に着目してペプチド金属錯体結晶を軸に研究を進めています。 e-mail: miyake.ryosuke@ocha.ac.jp |

(注1) ◎は、2021年度末をもって退職予定であり、○は2022年度末をもって退職予定である教員である。

なお、2020年度末(2021年3月31日付)で定年退職予定の教員は記載されていない。

(注2) ※は、領域代表である。

(注3) GCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注4) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。

| 理学専攻 Advanced Sciences | | | ☎ 03-5978- (下記☎参照) | |
|----------------------------|--|--|--|--|
| 情報科学領域 Computer Science | | | | |
| 担当 | 教員 | 授業科目 | 研究テーマ又は研究分野 | |
| Position | Name | Main Subject | | |
| 教授 Professor | GC YOSHIDA Hiroaki ☎(5386) | 非可換解析論 Noncommutative Analysis | 【非可換解析論】非可換解析論とは、量子系を記述する数学的な道具である。非可換解析論において、中心的な役割を果たす作用素環論、最近では特に、作用素環上で考えられる非可換確率論に関連した研究を行っている。 e-mail: yoshida@is.ocha.ac.jp | |
| 教授 Professor | GC SIIO Itiro ☎(5398) | ヒューマン・コンピュータ・インタラクション論 Human-Computer Interaction | 【ヒューマンインタフェース】コンピュータが日用品になり、ユビキタスな存在になるに従い、人とコンピュータのインタラクションが大きく変化しつつある。そこで、日常生活におけるコンピュータ利用の可能性と新しいインタラクション手法を研究する。 e-mail: sii@is.ocha.ac.jp | |
| 教授 Professor | GC OGUCHI Masato ☎(5379) | 情報ネットワーク論 Information Network | 【ネットワークコンピューティング】ネットワークにより接続された種々の計算機資源を互いに連携させ、高度なデータ処理を行うためのネットワークコンピューティング・ミドルウェアの研究を行う。 e-mail: oguchi@is.ocha.ac.jp | |
| 教授 Professor | GC ASAMOTO Noriko ** ☎(5382) | コンピュータ援用論 Computer Aided Instruction | 【情報数学】自然や社会の現象の解析において計算機を使ったアプローチを行う。数式処理系の現象理解への応用や、知識獲得の過程における計算機による支援を研究する。また教育現場とくに遠隔教育での計算機やネットワークによる支援を研究する。 e-mail: asamoto@is.ocha.ac.jp | |
| 教授 Professor | GC KOBAYASHI Ichiro ※ ☎(5708) | 知能情報処理論 Advanced Intelligent Information Processing | 【知能情報処理、言語情報処理】近半、知的といわれるコンピュータシステムをつくるのに、言語など様々なメディアがメディアとして活用され、その役割が大きくなってきている。本講義では知的な情報サービスを実現するために言語を中心とするメディアがどのように表現され、知的な情報処理として利用されるのかについて考察する。また、Web上などで実現されてきている意味を対象とした情報処理技術についても議論する。 e-mail: koba@is.ocha.ac.jp | |
| 教授 Professor | GC ITO Takayuki ☎(5700) | 画像情報論 Visual Informatics | 【ビジュアルコンピューティング】画像技術に関する先進的な研究を行う。例として、情報可視化、画像認識、写実的画像生成、3次元形状モデリング、音楽情報やテキスト情報と融合したマルチメディア画像技術、などに着目する。 e-mail: itot@is.ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor | GC ASAI Kenichi ☎(5388) | プログラム変換論 Program Transformation | 【プログラミング言語】部分評価を始めとするプログラム変換、部分継続の理論と応用、型理論、プログラムの正当性の証明、自己反映言語など、おもに関数型言語に軸足を置いたプログラミング言語の理論と応用について研究を行っている。 e-mail: asai@is.ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor | GC BEKKI Daisuke ☎(5378) | 情報構造解析論 Advanced Applied Analysis | 【数理言語学】自然言語の、主に統語論、意味論、語用論に対して、記号論理、ラムダ計算、圏などの数理理論学的アプローチを用いた分析を行っている。 e-mail: bekki@is.ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor | GC KUDO Kazue ☎(5380) | 統計数理論 Statistical Mathematics | 【数値計算・統計力学】統計力学で扱われる問題は、幅広い。その中でも、特に量子ダイナミクスや非平衡系のパターン形成の問題を、主に数値計算を用いて研究している。 e-mail: kudo@is.ocha.ac.jp | |
| [教授] | 番 雅司 | 非可換解析論 Noncommutative Analysis | 理学専攻 物理科学領域 統計物理学に同じ | |
| [准教授] | 北島 佐知子 | 非可換解析論 Noncommutative Analysis | 理学専攻 物理科学領域 統計物理学に同じ | |

(注1) ◎は、2021年度末をもって退職予定であり、○は2022年度末をもって退職予定である教員である。

*は、2020年度は研究指導を行わない教員である。また、**印の教員は、主任指導教員として志望できない。
なお、2020年度末(2021年3月31日付)で定年退職予定の教員は記載されていない。

(注2) ※は、領域代表である。

(注3) GCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注4) []は、他領域の兼任教員である。

【参考】生活工学共同専攻を志望する者は、「生活工学共同専攻学生募集要項」(別冊子)で出願すること。

2020年6月1日現在

| 生活工学共同専攻 | | | ☎ 03-5978- (下記☎参照) | |
|----------------------------|------------------------------------|---|---|--|
| 担当 | 教員 | 授業科目 | 研究テーマ又は研究分野 | |
| Position | Name | Main Subject | | |
| 教授 Professor | GC OHTA Yuji ☎(5739) | 生活支援工学 Life Support Engineering | 【人間工学】我々の生活と直接関連する生活支援機器、高齢者支援機器、人工臓器等の医用福祉機器の開発に関する工学的基礎研究を行う。生体システムを深く解析すると同時にシンセシス(設計)と技術評価に重点をおきつつ研究を進めている。 e-mail: ohta.yuji@ocha.ac.jp | |
| 教授 Professor | GC NAKANISHI Tadashi ☎(5745) | 環境材料機能学 Functionality of Materials in Environment | 【生活材料物性】機能性高分子の性質を物理化学的に検討し、機能発現機構を考察するとともに、生活材料の機能化の方向を探る。ゲル、荷電膜、消臭繊維などを最近の研究対象としている。 e-mail: nakanishi.tadashi@ocha.ac.jp | |
| 教授 Professor | GC OTAKI Masahiro ☎(5748) | 環境衛生工学特論 Environmental Sanitation Engineering, Advanced Course | 【環境工学】安全で快適な生活環境を確保するために、環境因子(主に水環境)が人間に与える様々な影響を評価する手法、及びそれらを管理制御する技術について工学的に検討、研究を行う。 e-mail: otaki.masahiro@ocha.ac.jp | |
| 教授 Professor | GC MOTOOKA Nobuhisa ☎(5585) | 建築設計学 Architectural Design | 【建築意匠論】建築は何を表現するのか?様々な建築の実例を通じて、建築形態を分析し、設計の意図ならびに方法を研究する。 e-mail: motooka.nobuhisa@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor | GC NAGASAWA Natsuko ☎(5743) | 建築環境論 Architectural Planning Theory | 【建築人間工学】都市や建物の利用者および環境にやさしい建築をつくるために、人間の生活、行動や身体とそれととりまく環境について工学的なアプローチで、建築空間の設計の根拠を提示する研究をおこなう。 e-mail: nagasawa.natsuko@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor | GC KONDO Megumi ☎(2551) | 生活環境史特論 Living Environment History, Advanced Course | 【自然人類学】ヒトの生物としての特徴を理解するため、現生の生体人類だけでなく、化石人類も研究対象とする。ヒトの身体に対する理解をより深め、それを踏まえて生活における身体に関わる諸問題について研究する。 e-mail: kondo.megumi@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor | GC NAKAKUBO Toyohiko ☎(5746) | ライフサイクルアセスメント Life Cycle Assessment (LCA) | 【環境評価学】循環型社会の設計、生活ごみや生活排水の処理に関わる環境インフラの更新について、シミュレーション手法による工学的な検討、研究を行う。 e-mail: nakakubo.toyohiko@ocha.ac.jp | |